

固定観念や思い込み

問 教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

皆さんは自分の配偶者のことを、「主人」「奥さん」と呼んではいないでしょうか。あるいは子どもたちに対して、「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」と教えてはいないでしょうか。

これらの性的役割分担の考え方は、「固定観念」や「思い込み」の一つです。私たちの心の底に存在する固定観念や思い込みは、世の中の流れとともに一部が変化することもあります。なかなか変わることはありません。

生活の中で生まれやすい固定観念や思い込み

性的役割分担の考え方以外にも、世の中には多くの固定観念や思い込みがあります。

例えば、AさんがBさんと会うと、BさんはAさんのことを目を細めてじっと見てくる、とします。Aさんは「Bさんは私に会うとよくにらんでくる」と考え、それを友達とのCさんに話します。この時点でAさんとCさんの間では、Bさんは性格の悪い人であり、二人がこのことをほかの人に伝えると、Bさんにはさらに「悪い人」のレッテルが貼

られることになりました。

しかしよく考えてみてください。Bさんは本当にAさんをにらんでいたのでしょうか。Bさんは目が悪くて、AさんやAさんの近くにあるものを目を凝らしてよく見ようとしていただけかもしれません。Bさんと直接話してみない限り、その理由はわからないのです。

この例の場合、Aさんは「Bさんは性格が悪いので自分をにらんでいるに違いない」という思い込みを持ってしまいました。Aさんやほかの人がこのまま思い込みを持ち続けると、他者がいくら「Bさんはいい人だ」と言っても、「Bさんは性格が悪い」という考えが捨てられない「固定観念」とらわれていきます。

このように固定観念や思い込みは、普段の生活における人付き合いの中でも形成されます。古くからある迷信などもこの一つです。

固定観念や思い込みはなぜ生まれる？

私たちは仕事や家庭、学業など、日々多忙な生活を送っ

ています。その中で一つひとつ、小さなことまで考えを巡らせていたならば、到底すべての物事をこなすことはできません。

この考える時間を節約するため、私たちは家庭環境や生活状況、うわさ話、メディアなどから、固定観念や思い込みを生み出します。それが良いものであれ悪いものであれ、それにそっていけば、割と簡単に物事を進めていくことができるからです。それにより考える時間は短縮され、余った時間で私たちはほかのことをしたり考えたりする余裕が生まれます。

先の例で考えると、Aさんは「Bさんはなぜ私のことをじっと見ていたのか」と考える時間を短縮できます。しかしそのことで、Bさんは多くの人から「性格が悪い」と思われてしまいました。

固定観念や思い込みとの向き合い方

固定観念や思い込みは、先の例のように他人を傷つけ、ときには差別や偏見を生み出す。また、自分がしたいと感じることがあっても、「でき

るわけがない」「才能がない」と挑戦することができず、自分自身の可能性を狭めてしまうこともあります。

それでは固定観念や思い込みは、そのすべてを捨てれば良いのでしょうか。

これらの中には、他者との生活において、一般常識として必要となるものがあります。そのようなものを捨ててしまつては、他者とのコミュニケーションがスムーズにいかなくなる恐れがあります。「固定観念や思い込みはすべて捨てるべき」というわけではありません。

まずは自分の中にある固定観念や思い込みを自覚し、「本当にそうなのか」と疑ってみてください。周りの情報に左右されず、自分自身で物事の本質を考えましょう。「私はこう思う」と周りに発信し、行動していくことが大切です。

自分や自分が所属する集団は、固定観念や思い込みにとらわれていないでしょうか。それにより苦しんでいる人はいないでしょうか。常に自分を振り返り、考える習慣を身につけましょう。

明治天皇と陸軍特別大演習

【その1】

明治天皇が藤田村へ

今から98年前の明治44年(1911年)11月11日、筑後平野で陸軍特別大演習が行われました。

天皇は演習前日、久留米市の県立中学明善校(現県立明善高等学校)に設置された大本営に到着。想定された演習は、南軍(司令官長谷川好道大将、熊本第六師団・久留米十八師団など)が熊本より北上、北軍(司令官川村景明大将、小倉第十二師団・混成旅団)が小倉より南下し、久留米周辺で交戦する、というものです。

天皇はこの南北両軍の展開状況を、次の4か所で統監されました。

- ・岡山村(現八女市)の岡山御野立所
- ・櫛原村(現久留米市)の小森野御野立所
- ・佐賀県基山村(現基山町)の長ノ原御野立所
- ・下広川村(現広川町)の藤田御野立所

藤田稲荷山での統監は11月14日。そのときの状況について

『明治四十四年陸軍特別大演習福岡縣記録』(福岡県・明治45年刊)には、

同十四日快晴。午前七時三十分御出門。同七時四十分久留米停車場御発車。同七時四十九分荒木停車場御著車。演習御統裁、同演習終了後参謀総長ヲシテ講評セシメラレ、勅語ヲ賜ハリ、次テ元ノ順路ニテ、午後二時三十九分還御遊ハセラレタリ。

と記録されています。

この大演習では藤田御野立所の関係で、荒木駅から日吉神社(当時の荒木村大字荒木)東までは、そのまま郡道が使われましたが、日吉神社東から下広川村藤田までは、大演習の前年、新たに道路が建設されました。

下広川村は藤田に

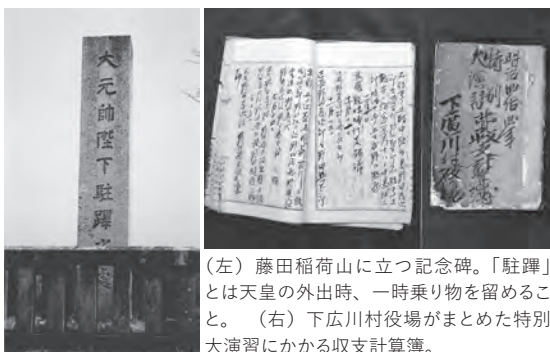
役場出張所を設けて対応

出張所の下部組織として、智徳、牟礼、当条、一條町、一條村のそれぞれに、演習出張事務所と演習委員が置かれました。地元で天皇による大演習統監が行われることは、下広川村の総力を挙げての一

大事業であったことが分かります。

下広川村役場が取りまとめた『明治四拾四年特別大演習費収支計算簿』が残っています。それによると、村費666円余が大演習雑費や大演習に付き損害賠償金、健康診断諸費、御野立所諸費などとして支出されています。

御野立所跡には、「大元帥陛下駐蹕之處」と刻まれた記念碑が立っています。下広川小学校の旧校歌の1番にも、「いぬいに仰ぐ稲荷山 明治の帝の畏くも 大演習のお出ましに 御野立まししあところ」と歌われています。



(左) 藤田稲荷山に立つ記念碑。「駐蹕」とは天皇の外出時、一時乗り物を留めること。(右) 下広川村役場がまとめた特別大演習にかかる収支計算簿。

広川町古墳資料館だより

古墳資料館南広場に、復元された石人山古墳家形石棺が設置されています。

石棺の実物は墳長120mの巨大な古墳に安置されており、保護施設内にあるため手で触れることはできません。対して復元された石棺は、中に入ったり触ったり、その大きさを体感することができます。

被葬者を葬るための石棺は、5世紀代の有力者の政治的・経済的な背景をうかがわせる遺物として、大きな意味をもちます。ぜひ一度、古墳資料館へお越しください。郷土が誇る古代の技術に、驚かされることでしょう。

